

令和6年度 第1回酒田市公共施設適正化懇談会 議事録

日 時 : 令和6年5月29日(水) 14:00~15:30

場 所 : 出羽遊心館ホール

参 加 者 委員／前田茂男、阿部公一、阿部司(代理)、長谷川正彦(代理)、堀賀泉、
佐藤賢一、後藤由美、舘石承太郎
(敬称略・ : (欠席) 小林正利、菊池裕基、高橋靖
順不同) 事務局／齋藤財政課長、鈴木松山総合支所長、前田社会教育課長、小林財政課
長補佐、成澤財政課アセットマネジメント主査、齋藤財政課アセット
マネジメント係主任

資 料 : ・次第、委員名簿等
・酒田市の公共施設の現状と課題について

【結果】

個別施設の適正化案について、合併前の旧1市3町別の将来人口予測も示しつつ、次回の懇談会で事務局が提案する。

【議事要旨】

1 委員自己紹介

2 副委員長選出

酒田市公共施設適正化懇談会設置要綱第4条第3項の規定に基づき、委員長(総務部長)が阿部公一東北公益文科大学教授を指名。

3 酒田市の公共施設の現状と課題について

事務局が資料に基づき説明後、意見交換

(委員) 今回検討の対象としている施設の合計の収支額はいくらか。

(事務局) 全て赤字だが、すぐには出ない。

(委員) 旧松山中学校体育館にスケートリンクを整備するための経費はどのくらいか。スケートリンクを作るために、今回の対象施設の適正化を考えているのか。

(委員長) 旧松山中学校は、仮設のスケートリンクにしたいと考えており、設計費を4月議会で、校舎の解体工事費を6月議会で計上した。工事請負費は整氷機も含めて約3億円で、校舎解体に5億8千万円かかる。財源は過疎債という7割戻ってくる有利な起債を用いて整備する。スケートリンクの費用を捻出するために、公共施設を削るわけではない。

(委員) 7割戻ってくるのが落とし穴。維持費や老朽化したときの負担などのことも考えるべきでないか。

(委員長) 松山体育館が老朽化しているため、旧松山中学校体育館を仮設スケートリンクとして活用した後、旧松山中学校体育館を松山地域の体育館として活用する。

(委員) スケートリンクの利用者の見通しはどうか。

(委員長) 利用者は残念ながら減るだろうと見込んでいる。正確に試算することは難しいが、面積が減る割合程度は減るだろうと見込んでいる。

(委員) スケートリンクは冬季間のみで、それ以外は体育館として利用するのか。

(委員) スケートリンクの取り外しに時間がかかるため、そのまま置くことを考えている。

(委員長) 屋内スケートリンクは県内で旧松山中学校のみになる予定だが、県が屋内スケート施設の整備を計画している。旧松山中学校への設置はあくまで仮設で、県に対しては庄内空港周辺で要望している。県が整備すれば、市のスケートリンクは終了し、体育館として使用する。

(委員) 過疎債のほかに有利な補助金などはあるのか。

(委員長) ない。

(委員) 小学校の廃校後は、校舎が残るという状態が続いている。ほかの施設でも廃止になった場合は、解体費用は大きくなることが予想される。統合して付加価値をつける方法などがあれば提案してもらえると行政としてはありがたい。庄内町の立川総合支所は改修して多機能化された。そこは行政主導ではなく、地域住民主導で人を集めたいという思いを感じさせる場所だった。

(委員) 平田農村環境改善センターは過去3年間、コロナの集団接種会場だったため、大きな会議はシアターOZで行った。敬老会も対面になるため、実施しなかった。アイアイひらたで懇親会を行ったときは、アイアイひらたからバスを出せないと言われたため、レンタカーを借りて移動した。建物をいかに長く持たせるかが大事で、お金がかかるから廃止ではダメ。建物が半分なくなるとしても、どの施設にお金をかけて守っていくかを考えるのが重要で、旧3町のどこかに催しができる場所が必要である。

(委員長) 利用率が10%にも満たない2つの施設を複合化しても20%にはならないし、維持管理経費がかかるのは変わらない。施設を閉めるという議論をしているわけでない。広域の視点でどこかに施設が1か所あればよいという議論もあり、将来に禍根を残さないように、我々も検討する。

(委員) 10年位前、松山体育館を修理したときに床を削って薄くなった。業者から床を見てもらった時、「こんな薄い状態でよく使っていますね」と言われた。松山体育館は耐震性もないし、修理も難しいと思うが、いつまで使うのか。

(委員) 松山体育館を廃止して、代わりに里仁館を使ってもらおうという方法もある。

(委員) 里仁館は古くて雨漏りがするため、注意しながら使ってもらっている。里仁館の体育館は、ないものと考えてもらったほうがいい。

(委員) ほかに旧地見興屋小学校と旧内郷小学校の体育館もあるので、ご検討いただきたい。

(委員) 自分はバレーボールをやっているが、体育館を修理して残すということであれば、

質の高いものを作らないと、高齢者の方が体を壊してしまう恐れもある。利用者の年齢層は資料では分からなかったが、高齢の方が多いと思う。体育館が2、3個あったとしても需要があるのかも疑問。集会施設は残すなど、高齢者が使いたいと思う施設を残すことも考える必要がある。

(委員) 老朽化している施設を廃止する基準はあるか。使用しない場合の判断はどういう流れか確認したい。

(委員長) 公共施設の廃止は地方公共団体の条例で決める。廃止のルールがあるわけではなく、その自治体の考え方で廃止する。

(委員) 安全性はどのように確認しているのか。

(委員長) 施設の耐震性については、全て耐震性があるのかと言われるとそうではないのが現実。体育施設は診断自体を実施できていないものもある。可能な範囲で確認して提供すべきであると考えているが、体育館は平屋ということもあり、優先順位は低い。安全性が担保されない場合は、廃止もありうる。

(委員) 老朽化が一つのキーワードとして出ているが、今後20年間、維持できるのか。

(委員長) 改築時期は建築から40年と過去には言っていたが、構造上問題がなくても雨漏りが発生すれば使用できない。平田総合支所の改修には約8億円の費用が発生するが、2・3階を使っておらず、ボイラーはいつ壊れてもおかしくない状態であることから、ひらたタウンセンターに移転したらどうかという話を内部的にしている。そうすれば、タウンセンターの賑わいも創出でき、平田総合支所の維持管理費もなくなる。

平田総合支所の2・3階を使ってもらえないかと民間に声をかけたときもあったが、正式な利用には至らなかった。ひらたタウンセンターの社会福祉協議会が入っているスペース付近に、支所を移転することができれば、有効活用できる。その後に平田総合支所をどうするかは、頭が痛い問題だが、官民連携で一括して借りてくれるところを探すという方法もある。

(委員) 民間もお金をかけないと簡単には入って来ないのではないか。

(委員長) 市の中心部でも入居は難しい状況。農村環境改善センターの魅力はホールであり、どちらかだけ生かすことが可能かどうかを考える必要がある。また、旧内郷小学校体育館と旧地見興屋小学校体育館のどちらも立派で、コミセンの扱いになっているため使いにくい、そういう場所を使っていければ、生涯学習センターを残す必要はない。そのような案を次回お示ししたい。最初に言うべきことだったが、適正化懇談会では委員の皆さんに責任を押し付けようとは思っていない。懇談会なので、いろいろな意見を出してもらって、最終的には行政が考えて地域に説明していきたいと考えている。

(委員) 施設の収支額と地域別の将来人口推計があれば、統合の判断材料の一つになると思うが、地域別の人口将来推計はあるか。産業革命のようなことが今起きており、少子化だけでなく、高校を卒業してから若者がどんどん都市部に流出している。酒田のまちなかに人口を寄せて残っていくことも可能かもしれないが、人口流出は抑えられない。

(委員長) 2045年の推計人口は約7万人で、総合支所地域の人口減少はさらに加速する。総合支所地域別に出せるような資料があれば次回お示ししたい。昭和の時代は人口減少が想定されていなかったため、フルセット型だった。東部中のように近いエリアで一緒に使えるものがあれば一緒にし、反発は強いが、機能を担保した上でうまく使うことができればと思う。ひらた生涯学習センターはどうか。

(委員) 郡鏡・山谷コミュニティ振興会の会長も兼務しているが、6月16日にスポーツフェスティバルをひらた生涯学習センターで実施する予定。どうしても敬老会的になってしま

うため、南高のチアガール、小中学生を呼んだりして人を集めたい。施設はある程度少なくなっても仕方ないが、行くところがないと言われるため、集まる場所は欲しい。細くてもよいので施設を維持して欲しいし、団体自体もスクールコミュニティという考え方でまともないと生きていけない。

(委員) 費用面を考えれば、地図的に平田地域と松山地域は近いようなので、ひらた生涯学習センターを中心にして集約することも可能なのではと思った。

(委員) 体育施設は面積も関係してくる。松山体育館はバスケットボールのコートが2面あり、ソフトテニスをすることもできるため、冬期間の土日に多くの予約が入る。平田はどうか。

(委員) 生涯学習センターやB&G 海洋センターでは輪投げなどもできる。

(委員) 平田体育館は床を抜いて野球をしていると聞いたこともある。松山体育館は平日の利用が少ないため稼働率が下がるのが課題。

(委員) 様々議論していくと厳しいことが見えてくる。キャリアデザインをやっていると、厳しい意見が出てくるため、若い人の意見も聞いてみたいし、次を担う若い人たちが使える施設を考える必要がある。地域の人にとっては残したい場所でも、平田農村環境改善センターはワクチン接種時に遠いと感じた。住んでいる地域によっても思いが違うため、活動状況も鑑みると難しい。人口減少が一つの基準になると思う。

(委員長) 公共施設の廃止は押し付けるわけではないが、次回も意見交換をしていきたい。平田、松山は比較的まとまっているエリアなので、イベントなどができる場所が確保できればいいという意見もあったので、次は各論に入って意見交換をさせてもらいたい。

4 その他

(事務局) 第2回懇談会は6月26日に開催するので、よろしくお願いいたします。